オバマ大統領の 2010 年度予算：概要（その 2）
～厚生省の国立衛生研究所～

NEDO ワシントン事務所
松山貴代子
2009 年 6 月 24 日

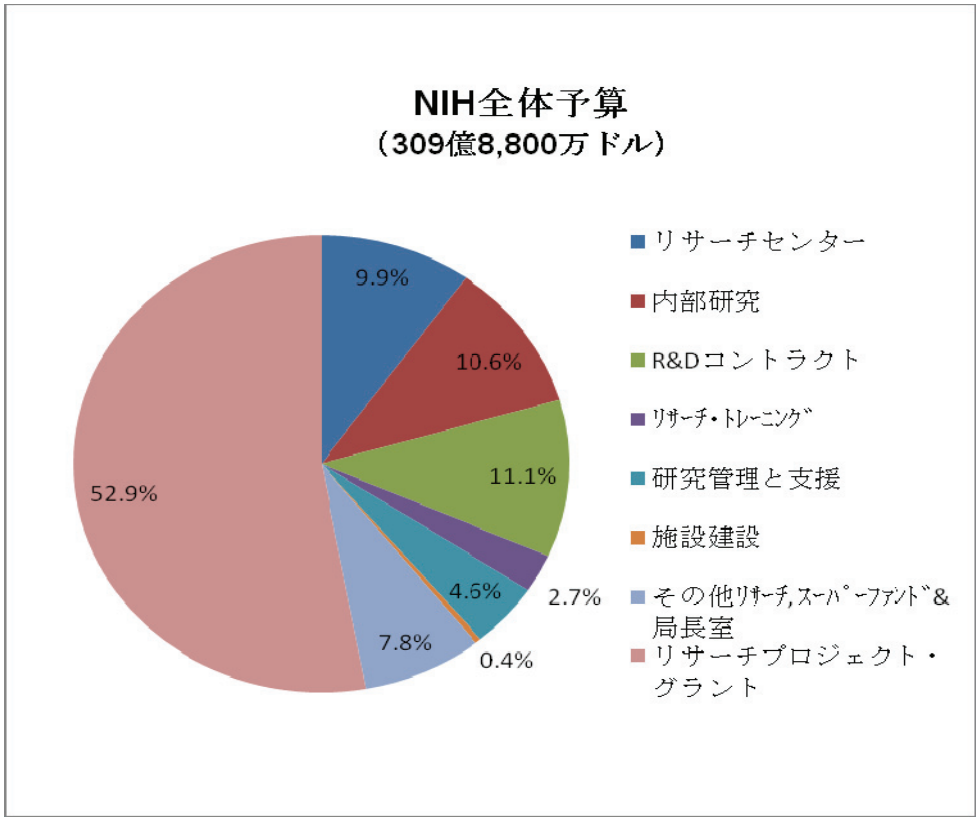
III. 厚生省

厚生省の 2010 年度全体予算（2009 年アメリカの経済回復・再投資法 =ARRA を除く）は 8,282 億 9,200 万ドル（515 億 9,700 ドルの増額）。Medicare（老齢者医療保険）、Medicaid（低所得者医療保険）、CHIP（児童の医療保険プログラム）、TANF（貧困家庭向け一時援助金プログラム）他の義務的支出プログラムの予算が約 90.5%にあたる 7,499 億 5,800 万ドル（前年度比 517 億 6,300 万ドル増）で、国立衛生研究所（National Institutes of Health =NIH）や食品医薬品局（Food and Drug Administration）等への自由裁量予算は約 9.5%に相当する 783 億 3,400 万ドル[注1]（前年度比 1 億 6,600 万ドル減）となっている。

NIH の 2010 年度予算は、厚生省全体予算の約 3.7%、厚生省自由裁量予算の約 39.6%に相当する 309 億 8,800 万ドル[注2]で、2009 年度よりも 4 億 4,300 万ドル（1.5%）の増額となる。NIH は、大学や医大、病院やその他研究施設等 3,100 を超える組織に所属する 30 万人以上の科学者や研究者を支援しており、2010 年度予算の約 84%がこうした外部研究へと計上され、約 10.6%が内部の基礎研究や臨床研究活動に充てられている。2010 年度の NIH 予算をメカニズム別に見ると、リサーチプロジェクト・グラント（Research Project Grant =RPG）への配分が最大で全体の 52.9%（前年度比 2 億 4,300 万ドル増の 163 億 8,200 万ドル）、R&D コントラクトが 11.1%（3,300 万ドル増の 34 億 1,100 万ドル）、内部研究が 10.6%（4,800 万ドル増の 32 億 2,700 万ドル）、リサーチセンターが 9.9%（4,000 万ドル増の 30 億 5,600 万ドル）となっている。

注1 「オバマ大統領の 2010 年度予算案：概要（その 1）」では、厚生省の 2010 年度自由裁量予算を 2010 年度政府予算「最新集計表」の Table S-12 に基づいて 805 億ドルと報告したが、本レポートの厚生省予算概要説明では、厚生省が発表した *Fiscal Year 2010 Budget in Brief* に記載されている数値を使用する。

注2 バージニア州アレクサンドリアに本部を置く Research!America の Stacie Propst 科学政策担当副会長は、インフレ率を考慮すると、2010 年度の NIH 予算が米国議会認可の 2009 年度予算よりも僅かながらの減少となることを指摘し、NIH を始めとする連邦政府研究機関の基本予算（baseline budget）が 2011 年までに大幅な増額を受けない限り、ARRA 予算を使い切った段階で、ARRA で救ったはずの雇用が失われてしまうのではないかという懸念を表明している。



（出典：*FY2010 HHS Budget-in-Brief* P.42 の図を、NEDO ワシントン事務所が加工）

NIH の R&D 予算は 2009 年度を 4 億 3,600 万ドル（1.5%）上回る 301 億 8,400 万ドル。2010 年度の R&D 予算増額分は全額が基礎研究と応用研究への充当であり、施設・設備費は前年度と同額となっている。NIH の研究機関別では、2017 年度までの 8 年間で NIH の癌研究予算を倍増するというオバマ大統領のコミットメントを反映して、国立癌研究所（NCI）の予算が 1 億 8,100 万ドル（3.6%）増額されることになる。また、国立環境衛生科学研究所（NIEHS）と国立研究資源センター（NCRR）も各々2009 年度比で 3.2%、2.1%の増額を受ける。2010 年度に予算が縮小するのは NIH 局長室のみ（前年度比 0.4%減）であり、その他の研究機関は殆ど全てが 1～2%の増額となっている。NIH の研究所とセンターの予算要求額は下記の通り：

（単位：百万ドル）

機関名	FY2009 予算	FY2009 ARRA	FY2010 要求	FY10 対 FY09
国立癌研究所（NCI）	4,969	1,257	5,150	181 （3.6%）増
国立心肺血液研究所（NHLBI）	3,016	764	3,050	35 （1.2%）増
国立歯科・頭蓋顔面研究所（NIDCR）	403	102	408	5 （1.2%）増
国立糖尿病・消化器・腎疾病研究所（NIDDK）	1,911	445	1,931	20 （1.0%）増
国立神経疾患・脳卒中研究所（NINDS）	1,593	403	1,613	19 （1.2%）増
国立アレルギー・感染症研究所（NIAID）	4,703	1,113	4,760	58 （1.2%）増
国立一般医科学研究所（NIGMS）	1,998	505	2,024	26 （1.3%）増
国立小児保健発達研究所（NICHD）	1,295	327	1,314	19 （1.2%）増
国立眼病研究所（NEI）	688	174	696	7 （1.0%）増

国立環境衛生科学研究所（NIEHS）	663	168	684	21 （3.2%）増
国立老化研究所（NIA）	1,081	273	1,093	12 （1.1%）増
国立関節炎・骨格筋・皮膚疾患研究所（NIAMS）	525	133	531	6 （1.1%）増
国立聴覚・伝達障害研究所（NIDCD）	407	103	413	6 （1.1%）増
国立精神衛生研究所（NIMH）	1,450	367	1,475	24 （1.7%）増
国立薬物乱用研究所（NIDA）	1,033	261	1,045	13 （1.3%）増
国立アルコール乱用・依存症研究所（NIAAA）	450	114	455	5 （1.1%）増
国立看護研究所（NINR）	142	36	144	2 （1.4%）増
国立ヒトゲノム研究所（NHGRI）	502	127	510	7 （1.4%）増
国立画像生物医学・生物工学研究所（NIBIB）	308	78	313	4 （1.3%）増
国立研究資源センター（NCRR）	1,226	1,610	1,252	26 （2.1%）増
国立補完代替医療センター（NCCAM）	125	32	127	2 （1.6%）増
国立マイノリティ健康・健康格差センター（NCMHD）	206	52	209	3 （1.5%）増
フォガティ国際センター（FIC）	69	17	69	1 （1.4%）増
国立医学図書館（NLM）	339	84	343	4 （0.3%）増
NIH 局長室	1,247	1,337	1,183	-64 （0.5%）減
計	30,349	9,880	30,791	442 （1.5%）増

（出典：*Department of Health and Human Services FY2010 Budget in Brief* P.38 の図を基にワシントン事務所作成）

NIH 予算のハイライト：

1. メカニズム別予算
   - **リサーチプロジェクト・グラント（RPG）**： 外部の研究者や研究機関を対象とするグラントで、2010 年度予算は前年度を 2 億 4,300 万ドル（1.5%）上回る 163 億 8,200 万ドルの要求。グラント交付数は全体で 171 件増えて 38,042 件が見込まれている。グラント申請者のグラント獲得成功率はかつては 3 件に 1 件であったが、2005 年度以降は 5 件に約 1 件となっている。2010 年度もこれに違わず、NIH 全体でのグラント獲得成功率は 20%[注3]と推定されている。RPG の主な内訳は下記の通り：
     （1） **競争グラント**の予算は、2009 年度の僅かな削減から、2010 年度には 7,930 万ドルの増額へ転じ、39 億 3,500 万ドルの要求。グラント交付数は 9,849 件（前年度より 7 件増）が見込まれている。
     （2） **無競争（Non-Competing）グラント**の予算は 11 億 6,690 万ドルで、2009 年度よりも 1 億 8,330 万ドルの増額となる。グラント交付数は 2009 年度よりも 138 件増えて 26,333 件となる見込みであるが、2008 年度と比べると 277 件少ない交付数となる。
     （3） **中小企業革新研究（SBIR）と中小企業技術移転研究（STTR）**グラントの 2010 年度予算は 1,290 万ドル増額で 6 億 5,010 万ドル。グラント交付数も 26 件増えて 1,860 件となる見通しである。

注3 2004 年度より開始されたバイオ医療研究ロードマップのグラントは特に競争率が高く、グラント獲得成功率は 2007 年度が 7%、2008 年度が 12%であった。2009 年度は 6%と予想されているが、2010 年度にはこれを更に下回り、5%程度になると見られている。

- **リサーチ・トレーニング**: 生物医学や行動科学研究者の育成を目的とする同計画の予算は7億9,800万ドルで、前年度より770万ドル(1.0%)の増額。フルタイムの研修ポジションが101増えて17,742となるものの、棒給やトレーニング関連経費の引上げは2010年度には見送りとなる。
- **リサーチセンター**: 最先端研究を長期的に支援し、生物医学研究の学際的プログラムを実施するセンターの予算は、2009年度を4,000万ドル(1.3%)上回る30億5,620万ドルで、支援センターの総数は10件増えて1,437となる。内訳は、①専門的/包括的研究センターが1,189(+17);②臨床研究センターが62(－8);③バイオテクノロジーが102(前年度と同数);④比較医学センターが62(+1);⑤マイノリティ機関の研究センターが22(同数)。

2. 主要プログラム
- **癌研究**: 2017年までにNIH癌研究予算倍増を目指す大統領の8ヵ年癌研究予算倍増計画の初年度にあたる2010年度の要求額は、2009年度を2億6,800万ドル(5%)上回る60億ドル。
- **胎性幹細胞(embryonic stem cell) 研究**: オバマ大統領は2009年3月9日に、ヒト胎性幹細胞を使った連邦研究に対する制約を排除し、ヒト胎性幹細胞研究への支援拡大をNIHに指示する大統領命令を発布した。大統領命令は厚生長官に今年7月7日までに、ヒト胎性幹細胞に関する新ガイドラインを発表するよう命じている。2010年度の幹細胞研究予算は10億7,600万ドル(前年度比1,600万ドル増)で、この内の2億4,700万ドルが幹細胞研究予算となっている。NIHでは新ガイドラインに基づいて2010年度のヒト胎性幹細胞研究費を見積もる予定であるが、同分野への政府支援の大きな拡大が期待されている。
- **共有基金(Common Fund)**: NIH局長室予算に盛り込まれた同基金は、**バイオ医療研究ロードマップ(Roadmap for Biomedical Research)**の構成プログラムを支援するもので、2010年度要求は前年度比1.5%増の5億4,910万ドル。2010年度には、「発見への新たな道(New Pathways to Discovery)」、「未来の研究チーム」、「臨床研究事業の活性化」という3テーマの下で、(i)構成単位(Building Blocks)、生物学的経路(pathway)と生体ネットワーク;(ii)分子ライブラリーとイメージング;(iii)構造生物学;(iv)バイオインフォマティクスとコンピュータ利用の生命工学;(v)ナノ医療;(vi)ヒトのマイクロビオーム・プロジェクト(Human Microbiome Project);(vii)エピゲノミクス(Epigenomics);(viii)ゲノタイプ細胞組織発現(Genotype-Tissue Expression:新規);(ix)高リスク研究;(x)学際的研究;(xi)官民パートナーシップ;(xii)臨床研究事業活性化イニシアティブという12課題を支援する。
- **ナノテクノロジー関連の環境・衛生・安全面(EHS)研究**: 人造ナノ材料の安全性研究拡大のために、NIEHS予算に盛り込まれたナノテクノロジーEHS研究予算を900万ドル増額して2,380万ドルまで引上げ。
- **バイオテロリズム・緊急時対応(Bioterrorism and Emergency Preparedness)**: NIHの2010年度バイオテロリズム・緊急時対応予算は1,600万ドル増額で17億9,300万ドル。増額分は全て**バイオ防衛研究(Biodefense Research)**へ充当されて16億9,600万ドルまで引き上げられる一方、**核・放射能脅威の研究**と**化学的脅威の研究**の予算は前年度同額で各々、4,900万ドルと4,800万ドルとなっている。
- **HIV/AIDSプログラム**: 2010年度の**HIV/AIDS研究**予算は前年度を4,500万ドル上回る30億5,500万ドル。この他、国際的な官民パートナーシップであるHIV/AIDS、および、結

核と闘う世界基金（Global Fund to Fight HIV/AIDS, Malaria, and Tuberculosis）に、国立アレルギー・感染症研究所（NIAID）予算から 3 億ドルが計上[注9]される。

[注9] 同基金に対する米国の 2010 年度負担金は 9 億ドル。